三豊市公立病院経営強化プラン（西香川病院編）概要

【現状分析】

外部環境分析

P4～P8

- 患者　：三観が 9 割
- 三観人口　：今後減少、高齢化率の上昇
- 医療需要　：年々減少
- 介護需要　：2040 年までは現状を上回る
- 三観病床数（対県平均）　：一般病床　下回る、療養病床　上回る
- 三観医師数（対県平均）　：下回る
- 地域医療構想（西部）　：高度急性期・回復期＝不足
  急性期・慢性期＝過剰
- 感染症拡大時の対応
- 医師の労働時間の制限（働き方改革）
- 診療報酬改定による収益構造の変化

内部環境分析

P9～P15

【三豊市の病院会計】
- 医業収益減少　：文書料の減少
- 医業費用　：横ばい
- 借入金＜現預金　：返済にあたっての懸念なし
- 資産　：老朽化

【三豊市＋指定管理の病院会計】
- 入院患者数　：横ばいなものの減少傾向
- 外来患者数　：減少傾向
- 経営指標（他病院比較）

平均を上回り、健全な経営ができているが、医業収益に対しての給与の比率が高い。良好ではあるものの、各指標徐々に悪化。

【地域医療構想を踏まえた役割の明確化】

P17～P19

西部構想区域

【地域包括ケアシステムの中心的役割】
圏域内での一体的な医療・介護サービスの提供

・急性期病院、介護事業者等との連携

地域住民の意見の反映

・プランでのパブリックコメントの実施
・点検評価の公表

～病院理念～
高齢者にやさしい

高齢者医療の中核的役割を担う

回復期・慢性期病床

・在宅復帰支援、長期療養、介護、リハビリなどを提供

精神病床・認知症医療

・精神医療を提供
・認知症に関するセミナー開催などの啓発運動

現状分析・役割を踏まえた上での・・・

【課題】

P16

①収入増加・確保
- 病床利用率の維持

新型コロナウイルスなどの影響で徐々に低下している
看護師の負担増による人材不足

②経費削減・抑制
- 物価高騰による材料費などの医療経費の値上がり
- 職員給与費の対医業収益率の上昇

③人員確保・離職防止
- 医師の高齢化
- 産休・育休中スタッフ対応のための看護師などの人員配置
  復帰後のケアによる離職防止

④施設
- 築40年を迎えた建物の老朽化

【目標と具体的取組】

P20～P23

【経営指標の目標】
現在の数値が比較的健全な数値を保っているため、現状の維持、病床利用率の 95%を目標としています。

①収入増加・確保
- 啓発講演などによる周知、来院しやすい環境の整備
- 介護サービス事業者との一層の連携
- 勉強会開催などによる診療報酬請求の精度向上

②経費削減・抑制
- 複数業者による見積合わせ等による材料費・委託料の見直し
- 近隣医療機関との高額医療機器の共同利用

③人員確保・離職防止
- 大学・医療機関への医師派遣の要請
- 人材紹介会社の活用
- 医師の状況・意向確認、負担軽減のための補助者の採用
- 定期的に行っている面談などによる働きやすい環境作り

④施設
- 現在でも行っている建物の長寿命化に必要な工事の実施
  （目標使用年数 65 年）